

環境調和型の持続可能な社会の実現に向けた基本合意書の締結について
～ やまなしモデルP2Gシステムによる取り組み ～

2022年9月5日

山 梨 県
サントリーホールディングス株式会社

山梨県（県庁：山梨県甲府市、知事：長崎幸太郎^{ながさきこうたろう}）とサントリーホールディングス株式会社（本社：大阪府大阪市北区、代表取締役社長：新浪剛史^{にいなみたけし}、以下「サントリー」という。）は、環境と調和した持続可能な社会の実現を目指し、再生可能エネルギー電力で水素を製造する、やまなしモデルP2Gシステム（※1）により、サントリー天然水 南アルプス白州工場及びサントリー白州蒸溜所（以下「白州工場」という。）の脱炭素化とともに、周辺地域等で水素を活用する社会実証を通じて、カーボンニュートラルの実現に向け、連携して取り組むことについて合意しました。

P2Gシステムは、太陽光などの再生可能エネルギーの電力を活用し、水の電気分解から水素を製造する技術であり、カーボンニュートラル社会の実現に向け、再生可能エネルギーの導入拡大と温室効果ガスの削減において、世界的に期待されており、山梨県内では2021年6月から、P2Gシステムで水素を製造し、民間施設へ輸送・利用する社会実証も始まっています。

今回の事業では、国のグリーンイノベーション基金事業の第1号案件として、再生可能エネルギーを安全・安心に水素エネルギーに転換できる固体高分子（PEM）形P2Gシステムを大規模化し、白州工場へ新たに導入することにより、工場内で製品製造の際に必要な熱エネルギーの燃料を、CO2フリーのグリーン水素への転換を図るとともに、周辺地域での水素の活用についても検討を行います。

白州工場への導入については2024年度末、設備の規模は国内最大となる16MW（メガワット）級を予定しており、完成後は世界トップクラスのグリーン水素の製造・利用拠点が、山梨県の白州の地に生まれることとなります。

山梨県とサントリーは、それぞれの事業で培ってきた「自然」「水」「再生可能エネルギー」に関する技術を生かし、やまなしモデルのP2Gシステムで生み出されるグリーン水素の活用により、サステナブルな未来の創造を目指していきます。

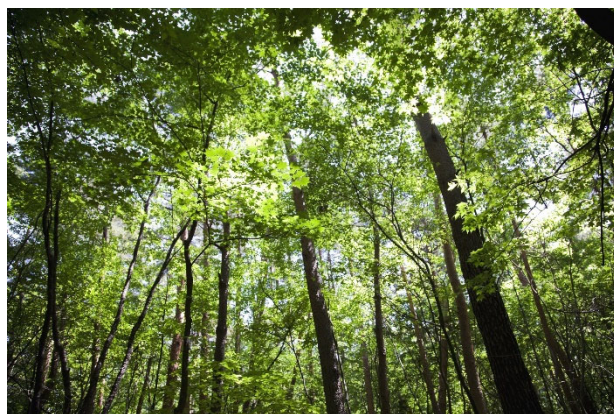
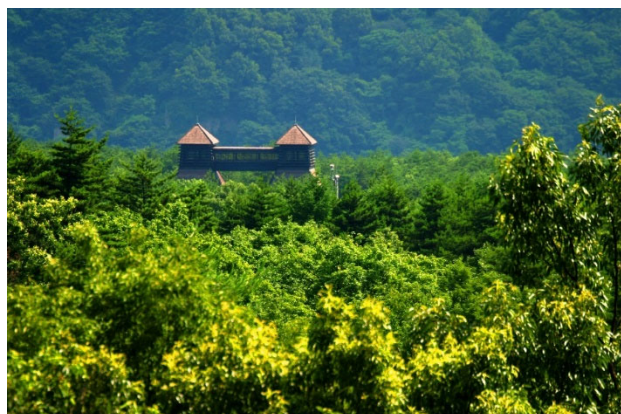
（※1）国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託事業として、山梨県、東レ株式会社、東京電力ホールディングス株式会社及び株式会社東光高岳が共同で開発し、再生可能エネルギーを安全・安心に水素エネルギーに転換できる固体高分子（PEM）形P2Gシステム

＜本発表内容に関するお問い合わせ先＞

山梨県 企業局電気課新エネルギーシステム推進室 TEL : 055-234-5268 (直通)
サントリー TEL : 0120-139-310



【白州工場と南アルプスの山々】



【白州工場周辺の自然（森）】